東京福祉会だより

第66号　平成25年3月（通刊89号）発行

『さみしさ・・・それは老いた日のアクセサリー』
女優　中村　メイコ さん

25年度行事予定

物故者慰霊法要　御礼と報告／
葬祭ディレクター技能審査
結果の発表

チャリティーコンサート
御礼と報告

体験寄稿文
『倶会一処』　F.S さん

読者の皆様の作品発表／
資料請求

響

ひびき

〝響〟とは「郷」の「音」と書きます。私ども東京福祉会では、この温かなものを大切に「心に響く葬儀」を目指しております。

「東京福祉会だより（響）」は、個人会友、団体会友の皆様をはじめ都内の各福祉事務所・施設などに、配布しております。

大正8年創立

社会福祉法人 東京福祉会

道灌山会館　江古田斎場　ホール多摩国立

さみしさ・・・・それは老いた日のアクセサリー

やっぱり・・・毎日がさみしくてネ・・・と、たいていのおとしよりはおっしゃる。

それでいいのですョ、それで・・・・と私はいつも言います。

〝さみしさ〟は、あわただしかった人生の最終の駅舎に小さくゆれているコスモスの花のようなものだと思うのです。

あくせく働き、子を何人か育て、日常を器用にまとめ、愛嬌をふりまき、やきもちを上手にかくして、おしゃれな生活をこころがけ、ひたすら走りつづけた若い日々を通りぬけたいま・・・・ 老人は初めての〝さみしさ〟を感じるのでしょう。

だとしたら〝さみしさ〟は長い旅路の果てに待っていてくれた、やさしいベッドなのかもしれません。

無愛想な夫にふと男の哀愁がのぞいたり・・・・とつぜん窓から「あ、これが夕暮れというものか・・・・」と、静かなほの暗さがしのびよってきたり・・・・ あら、私〝ひとりごはん〟してるンだ、うちのテーブルこんなに広かったのね、たまにお花でもかざろうかしら・・・・。などなど・・・・ 新しい発見がやさしく目に入ってくる・・・・ それが〝さみしさ〟なのだとしたら、それは老人がさりげなく身につけるアクセサリーなのかもしれません。

妙に忙しそうにテキパキと日常をこなさなくとも、ふんわりとした〝さみしさ〟を身にまとって、私はちんまりと老後を生きていきたいと思うのです。

ふんわりとした〝さみしさ〟の中で

亡くなった父は、まだ私がとても若かった頃にこんなことを言った・・・・「ボクたち夫婦は、キミにたいしたものは何ものこしてやれなかったが・・・・ ボクたちが死んでしまったあと、『あなたの親はひどい人だった』とか『あなたの親にこんないやな思いをさせられた』という人は、一人もいないと思うよ。それがボクたち夫婦が、いつも心がけて生きてきたことだ。ま、それだけがキミにのこしてやれるモノだね・・・・」と。

その通りだった。私は幼い頃からいつもいつも、おだやかな両親のあたたかく、ほほえましいエピソードにつつまれて育ってきた。

――私もそうしようと思うようになった。ちかごろは、やたら〝遺言状〟とやらをきちっとのこすべきだというが、 昔はよほどの大金持ちとか、ふくざつな事情がある家でないかぎり、庶民は〝遺言状〟など特になかったように思う・・・――。

見送った両親が、それなりにのこしてくれたぬくもりを黙って、のこされた家族が仲よくわけあって、親たちの人生をなつかしく理解して、そのあとをいきてゆく・・・・。〝子育て〟とはそういうものではないだろうか・・・・・。

亡き母が いまだにコワイ

「メイコ〝返事と共にすぐ動作〟です」

母は幼い私にいつもそう言いました。

〝ドアはキチッと閉める〟〝ぬいだ靴はすぐにそろえる〟〝帰って来てぬいだものはすぐにかたづける〟〝ベッドメイクは起きたらすぐに〟〝明日のスケジュールに合せて忘れ物のないように〟〝自分がわるいと思ったら、すぐに相手にあやまる〟等々・・・・。これらは七十八歳のおばあさんになった現在も、脈々と私の耳にきびしく残っていて、実に素直に身体が反応してしまう。けれど、この子どもっぽい反応が、二歳半から七十八歳までの長い長い女優生活と、そして半世紀をかるくこえてしまった主婦生活との二足のわらじをなんとかささえてくれた基本になっていることをしみじみ感じる今日このごろ・・・・。

今日のディナーはサーモンのムニエルとホワイトシチューにしよう・・・ とチラッとひらめいたら、すぐにとりかかる。あとで・・・・なんて思っていたら忘れちまうんだから。

明日のTVのシナリオは? と思ったら、すぐに目を通しておぼえてしまう。

明日着るものがひらめいたら、すぐにコーディネイトして目に入るところにぶら下げておく。靴もいまのうちに玄関に出しておく。

さっきの娘からの電話に、少しふきげんな声だったと思ったら「さっきの私、感じわるかった？　ゴメンネ！ちょっとバスルームの掃除中だったのォ。」と絵コメ入りのメールをする。めずらしくバイオレット色の秋のスウェターなどを着て私の目の前をよこぎった夫に、「おじいさんになったほうが、そういう色は似合うわネ。とってもいい。」とか、なにげなく言ってみる。猫の首ワを新しいのに替えてやる。台所のドアのカギが開けっぱなしかどうか、すぐにカクニンする。お米をとぐ。

――それらは、気が付いたらすぐに動作にうつさないと、アッというまに忘れてしまうのだから・・・・。母が亡くなった年齢（とし）に十年をきったいま、私は毎日のように心の中で素直につぶやく・・・・「ママありがとう！」

あのときの夫の言葉

十八歳未満という言葉があるのなら、満十八歳はもう未満ではないということだ。無理矢理にでも、もう一人前なのだからと思って、娘たちを家から出して一人住まいをさせよう。夫にそう言われたとき、私は「エーッ！そんなの淋しいよォ。」と言った。夫は言った・・・「人間は親と一緒に暮らすよりも、ずっと　ずっと長く〝他人〟と暮らしていくんだ。親にとって楽しかったり、便利だったりする人間に育てるよりも、たいていの〝他人〟とうまく暮らしていける人間に育てるべきじゃあないだろうか・・・？」と。

十八歳で家を出て、自分で選んだ外国で何年かをすごし、それぞれ自分の人生を歩んでいる三人の我が子は、苦労しながらも、なんとか〝自分の世界〟をつくり出したようだ。そうだョ。あのときも私はあんなにさみしがったじゃないか・・・・けれど、あの時代の〝さみしさ〟には、まだいろんな〝ともだち〟がいたのだろう・・・・〝おしゃれ心〟だったり〝お酒〟だったり〝遊び仲間〟だったり、そしてなにより〝体力〟という、とてつもない味方がついていたのだろう。

そんな、たのもしい〝ともだち〟がみんないなくなってからの〝さみしさ〟だから、老いの身は、「なんだか毎日がさみしくてネ・・・」とつぶやいてしまうのだろう。

だからこそ

いいじゃないですか・・・・ゴチャゴチャゴチャゴチャうるさかった若き日々を、静かな夕やけの向こうに見送りながら、この、うすむらさきのストールのような静かな〝さみしさ〟こそ、ひっそりと年齢（とし）を重ねた者への、やさしいプレゼントなのです。

ありがとう・・・・　ふんわりと受けて立ちましょう・・・・　人生の終着駅に咲いていた〝さみしさ〟という名のコスモスの花を・・・・。

女優

中村 メイコ

中村　メイコ　（本名　神津（こうづ） 五月（さつき））

東京都 出身、作家　故中村正常氏の長女として生まれる。2歳の時に映画「江戸っ子、健ちゃん」（P・C・L映画製作所／現東宝）にてデビュー。その後、数多くの作品に出演し天才子役として注目される。

1957年、作曲家　神津善行氏と結婚し1男2女を設け、「神津ファミリー」として親しまれる。数々の昭和を代表するスターとも親交があり、日本の芸能・放送史を知る上で貴重な存在。NHK大河ドラマ「篤姫」、NHKラジオ「ラジオ深夜便」等テレビ・ラジオに多数出演。
放送作家協会賞、NHK放送文化賞、松尾芸能賞演劇優秀賞など多数受賞。

【著 書】「夫とふたりきり！これはもう恐怖です」（青春出版）、「人間の記録（メイコめい伝）」（日本図書センター）、「五月蠅い五月晴れ」（東京新聞出版局）、「メイコとカンナのことばの取説」（亜紀書房）、「人生の終いじたく」（青春出版）16万部のベストセラー、等多数。最新刊**「夫の終い方、妻の終い方～お二人様の老後～を生きぬく知恵と悪知恵」**（PHP研究所）好評発売中。

25年度行事予定

1. 展示・相談会の開催

平成25年度は「展示・相談会」を全6回、開催いたします。

開催日時（予定）		場　所
5／26(日)	10:00～13:00	ホール多摩国立
6／30(日)		江古田斎場
7／28(日)		道灌山会館
9／29(日)		江古田斎場
11／13(水)		ホール多摩国立
平成26年 3／1(土)		道灌山会館

展示会（イメージ）

2. 平成25年度「わの会」（和の時Ⅰ、和の時Ⅱ、話の時）開催

「悲しみや苦しみをのりこえ、心の安らぎを…」を合い言葉に発足された「`わ、の会」。
来年度は「和の時Ⅰ」、「和の時Ⅱ」、「話の時」それぞれ4回開催いたします。

「わの会」を行い私どもが感じたことは、喪失体験の感じ方は人それぞれであり、その感情を抑えて日々生活を送らなければならない現実があるということです。そして、そのような方々の心の拠りどころとしてこの**「わの会」**を行うことを東京福祉会の務めとしなければならないということも痛切に感じました。

この**「わの会」**は**「和の時」**に参加してから**「話の時」**に参加するというルールを守れば、どなた様でも、何回でもご参加できます。もし、悲しみからなかなか立ち直れない、その時のお話を誰かに聞いて欲しい、または聞きたい、そう思われた方はぜひご参加ください。

区分	形　式	備　考
和の時Ⅰ	講話会	葬儀を終えられてから「1年以内」の皆様
和の時Ⅱ	講話会	どなた様でもご参加できます
話の時	参加者の皆様に若干名のグループに分かれていただき、実際にご自分の体験や、感じたことなどを声に出してお話いただく会です。　なお、無理にお話を聞き出す事はいたしません。他の方のお話を聞いていただくだけでも構いません。　各グループに一人「ファシリテーター」（うながす者という意味です。）と呼ばれる会をスムーズに進行する者が加わります。	1、「話の時」に参加される前に必ず「和の時」にご参加ください。 2、参加の際は次の3つのルールをお守りください。 ①その場でお話をされた内容は外に持ち出さない。 ②その内容を記録（録音・メモなど）に残さない。 ③他人を否定・中傷するようなことは言わない。

開催区分	開催日時（予定）	対　象　者	備　　考	開催場所
和の時Ⅰ	5／3（金）10:00～13:00	平成24年4月以降にお葬儀を終えられた方	昼食をご用意させていただきます	江古田斎場
和の時Ⅱ	5／14（火）10:00～12:00	どなた様でもご参加できます	昼食はございません	
話の時	6／24（月）10:00～12:00	「和の時」に参加された方	昼食はございません	
和の時Ⅰ	8／8（木）10:00～13:00	平成24年7月以降にお葬儀を終えられた方	昼食をご用意させていただきます	
和の時Ⅱ	8／20（火）10:00～12:00	どなた様でもご参加できます	昼食はございません	
話の時	9／17（火）10:00～12:00	「和の時」に参加された方	昼食はございません	
和の時Ⅰ	11／7（木）10:00～13:00	平成24年10月以降にお葬儀を終えられた方	昼食をご用意させていただきます	
和の時Ⅱ	11／19（火）10:00～12:00	どなた様でもご参加できます	昼食はございません	
話の時	12／18（水）10:00～12:00	「和の時」に参加された方	昼食はございません	
和の時Ⅰ	H26. 2／7（金）10:00～13:00	平成25年1月以降にお葬儀を終えられた方	昼食をご用意させていただきます	
和の時Ⅱ	H26. 2／19（水）10:00～12:00	どなた様でもご参加できます	昼食はございません	
話の時	H26. 3／19（水）10:00～12:00	「和の時」に参加された方	昼食はございません	

●開催日時は、都合により変更する場合がございますので、事前にお問い合わせください。
●参加ご希望の方は、右記の番号まで①参加希望日 ②お名前 ③住所・電話番号（任意） ④参加人数をご連絡ください。
「わの会」につきましては、準備の都合がございますので開催日の2週間前までにご連絡ください。

●お問い合わせは●
社会福祉法人 東京福祉会 渉外部
電話03-3823-8026
〈月～土／9:00～17:00〉

平成24年度　物故者慰霊法要 御礼と報告

昨年10月26日に練馬区江古田斎場で、また11月1日には国立市のホール多摩国立にて、聖恩山霊園納骨物故者永代慰霊法要が執り行われました。聖恩山霊園　堀内是長導師の読経のもと、東京都、都内各福祉事務所、各施設の皆様方並びに、当会 原山陽一理事長をはじめ職員が参列、焼香をし、ご供養させていただきました。

東京福祉会
原山 陽一　理事長

東京都福祉保健局
梶原　洋　次長

江古田斎場においては、東京都福祉保健局次長の梶原 洋様に、ホール多摩国立では東京都西多摩福祉事務所長の大東 寛宜様に、それぞれご丁重な来賓ご挨拶を賜りました。

今回江古田斎場では、今までご希望の方のみに行っておりました施設見学をプログラムの中に組み込むことで、例年より多くの皆様に、改装成った納骨堂及び故人様をお預かりする霊安室などの設備をご見学いただけました。

ご参加の皆様は、故人様を送り出された側として高い関心をもたれ、ご案内した当会としましても改めて気の引き締まる思いでした。幸い施設をご覧いただいた皆様には、尊い御霊を安置する施設としてご安心いただけたご様子でした。

各福祉事務所・施設等から託されたたくさんの御霊は、今後とも責任をもって、そして心を込めてお守りしてまいる所存です。皆様お忙しい折とは存じますが、是非とも年に一度の法要にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。ご参列いただきました皆様方には、心から厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

～葬祭ディレクター技能審査結果の発表～

第17回　厚生労働省認定葬祭ディレクター技能審査結果が発表されました。東京福祉会でも職員が毎回受験しており、今回も3名が合格しました。この結果、有資格者は70名、有資格率（職員数に対する有資格者の割合）は約77%（全国平均約50%＝平成21年度統計）となりました。

東京福祉会では、「葬祭ディレクター」の資格と経験を生かして、安心して納得のいく心のこもったご葬儀をサポートさせていただくために、より質の高いサービスの提供をめざし、引き続き努めてまいります。

※この資格制度は、葬祭業界に働く者にとって、より高度な知識と技能のレベルを審査し、その技能を証明するとともに社会的地位の向上を目的とした、厚生労働省認定の資格制度です。

チャリティーコンサート御礼と報告

Charity Concert

平成24年12月8日（土）練馬文化センターつつじホールにて、「皆様との〝ふれ愛・絆〟を大切に」をテーマに、武蔵野音楽大学の皆様のご協力をいただきチャリティーコンサートを開催いたしました。

当日は、大勢の方々にご参加いただき、皆様から温かいご支援をいただくことができました。ご寄付総額は35,148円にのぼりましたことをご報告申し上げます。この募金は、東日本大震災において被災された方々への義援金として、社会福祉法人東京都共同募金会（赤い羽根共同募金）へ全額寄付し、有効に使わせていただきます。皆様の温かいお志に対しまして、改めて心から御礼と感謝を申し上げます。

ありがとうございました。

演奏風景

金管五重奏

木管五重奏

挨拶をする 原山 陽一　理事長

会友制度 Bプランはとってもお得！

基本葬祭料金 30%割引 ＋ 10の特典

◎直営斎場利用料金50%OFF
◎生花1基サービス
◎花とみどりのギフト券 10,000円分進呈
◎オリジナルエンディングノート進呈など

※Bプランは生前に加入する必要があります。

会友Bプラン新規加入キャンペーンお礼

おかげさまをもちまして、キャンペーン期間中多くの方々にご加入をしていただくことができました。
ご加入いただきました皆様、誠にありがとうございました。

現在、Aプランにご加入中の方は、加入金9,000円で会友Bプランに変更することができます。

社会福祉法人 東京福祉会 渉外部
03-3823-8026
ホームページからも加入手続きが行えます。
東京福祉会 検索
詳しくはホームページをご覧ください。

倶会一処

F.S
（世田谷区在住）

体験寄稿文

私の母は、平成21年1月24日に胃がんで亡くなりました。行年83歳でした。

母は、私が14歳の時に父を亡くしてから32年間、女手ひとつで私と姉を育ててくれました。3人同居で暮らしていましたので、悲しみはとても深く感じました。

母は、父が亡くなった直後に胃がんになり、胃を3分の2切除しました。その後30年間、定期的に通院しておりましたが、がんの再発はありませんでした。しかし、平成20年1月の定期通院の時に胃がんが発見されました。

今回のがんは、以前のそれとは異って進行が速いタイプのものでした。4月には、胃の全摘出のため開腹したところ、既にがんが広い範囲に転移しているため、摘出はできませんでした。それでも5月には退院し、抗がん剤を服用して自宅療養をすることになりました。

体力は落ちてきているものの、月1回の外来受診は自力で行けると母は気丈でしたが、心配なのでその都度付き添って通院しました。6月から8月の通院では、経過は良好で症状は安定していました。

ところが、8月の通院の帰りに電車内で転倒し、股関節を骨折してしまいました。このことがあって以来、次第に症状が悪化し、11月の通院・検査で再入院することになりました。

しかし、特に治療することもなく病院の許可を得て、他の病院の「丸山ワクチン」を注射することになりましたが、回復することもなく亡くなりました。

そのときの私の気持ちは、悲しみというより虚しさ、虚脱感でいっぱいでした。

自分はもう生きていてもあまり意味がなくなったと思いました。その後、葬儀の諸々で慌しく心もうつろな感じでした。

葬儀は菩提寺の本堂、ご本尊　阿弥陀様の御前にて執り行ったため、とても荘厳で極楽浄土に必ず行けたと感じ、安心しました。ただ、葬儀が終わったあとおもいきり泣きたいと思いました。「お母さん！　本当にありがとう」

このような心の状態から劇的に立ち直ることができたのは、やはり時間の経過と**「わの会（和の時）」**の三橋尚伸（みつはし しょうしん）先生との出会いのお陰だと思います。

三橋先生のお話は、とても共感できました。**「わの会（話の時）」**で、大切な方を亡くされた様々な方のお話を拝聴させていただきましたことも、心を癒す一助になったと思います。

しかしながら、最も大切なことは自分なりの哲学、信仰、死生観、信念をしっかり持つことであり、そのことが立ち直る上でも大変役立ったと実感しています。私の家の宗派は浄土宗で、私自身もこれを信じています。「阿弥陀経」の中に「倶会一処（くえいっしょ）」という言葉がありますが、私は、「極楽浄土で必ず再会できる」という意味のこの言葉が大好きですし、心から信じています。このことが今でも、そしてこれからも私の心の支えになると確信しています。

「わの会」にご参加の皆様におかれましても、どうか心の平穏を得ていただきたいと、心からお祈りしております。

ありがとうございました。

読者の皆様の作品発表

俳句

S.K（練馬区在住）

一時を素足となりて水温む

Y.K（練馬区在住）

黄落期柔道の子等声澄めり

去り気無く別れとなるや鍋コース

S.Y（練馬区在住）

雪催ふ野鳥の夢は青い鳥

寒明けて街の雀は一人っ子

俎板の無数の傷よ水ぬるむ

車窓より武蔵野楽しむ梅日和

俳画

S.S（練馬区在住）

<お詫びと訂正>

「東京福祉会だより（響）」65号（平成24年9月発行）の記事に誤植がありましたので、謹んでお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

◇表紙　「板東　眞理子　先生」

↓

「坂東　眞理子　先生」

「東京福祉会だより（響）」は再生紙を使用しています。

VEGETABLE OIL INK

■葬儀に関する詳しい資料（施設案内、料金表〈仏式、神式、キリスト式、花祭壇など〉）をご用意しております。お気軽にご請求ください。

①仏式のご案内　②花祭壇のご案内　③道灌山会館のご案内　④江古田斎場のご案内
⑤ホール多摩国立のご案内　⑥会友制度のご案内　⑦葬祭のしおり

■資料のご請求はこちらまで

電話 **03-3823-8026**
社会福祉法人 東京福祉会 渉外部
〈E-mail〉 info@fukushikai.com
東京福祉会 検索
http://www.fukushikai.com

発行所　社会福祉法人　東京福祉会　〒113-0022　東京都文京区千駄木3−52−1　電話03（3823）8026